

目指す子供の姿

- 音楽活動を通して、曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いたり理解できたりするとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付けて、演奏したり音楽をつくったりできる。
- 音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもったり、曲や演奏の楽しさやよさを見いだしながら、音楽を味わって聴いたりできる。
- 音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①音楽活動の中で、実感を伴いながら知識を習得したり更新したりする学習活動の充実

- ◇児童が音楽から感じ取ったイメージや感情と、音楽を形づくっている要素の表れ方などとの関係を捉え、知識として習得したことを、表現や鑑賞の活動に生かすことができる学習活動を設定する。

②技能と「思考力、判断力、表現力等」の育成とを関わらせた学習活動の充実

- ◇音楽表現を考える過程で、思いや意図を実現するための技能を習得することの必要性を実感できる学習活動を設定する。
- ◇児童が音楽表現を楽しんだり、表したい音楽表現をしたりするために必要な技能を習得できるように、互いの演奏や作品を聴き、表現のよさを判断する学習場面を設定する。

③児童の思いや意図を音楽表現に生かしたり、音楽のよさや面白さを見だし、曲全体を聴き深めたりすることができるような学習活動の充実

- ◇「児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素」を明確にし、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える学習場面を設定する。
- ◇他者と関わりながら、音楽表現を工夫して音楽で表したり、音楽の楽しさやよさを見いだしながら味わって聴いたりする学習場面を設定する。

④ICTの効果的な活用による表現及び鑑賞の活動の充実

- ◇デジタル学習基盤を活用し、音や音楽の可視化、シミュレーションによる比較聴取などによって、児童が様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにする。